



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：入植者少年3人が行方不明

6月12日夜、西岸南部のヘブロン近郊の入植地に住む少年3人が、宗教学校からの帰宅途中に行方不明になった。報道では、イスラエル警察に誘拐を知らせる通報があったが、当初、警察はいたずら電話だと判断していた。その後、少年の両親からの連絡を受けて、警察は誘拐事件として捜査を開始した。15日、イスラエルのネタニヤフ首相は、同事件は、ハマース軍事部門による犯行であると述べているが、根拠は示していない。イスラエル軍は、3人の少年が誘拐されたと見られるヘブロン近郊での捜査を開始し、その後北部のナブルスを含む西岸全域に捜査を拡大している。17日までにハマースの政治家を含む約200人が拘束された。イスラエルのメディアは、軍は3人の少年を探すためにハマースに圧力をかけつつ、西岸のハマースの政治的インフラを破壊しようとしていると分析している。イスラエル軍は、西岸内での検問を強化するだけでなく、ガザの境界を閉鎖し、3少年のガザ移送を阻止しようとしている。

イスラエル内外のメディアは、パレスチナの3つの組織が少年たちを誘拐したとの声明を発売したと報道しているが、今のところ声明の信頼度は不明である。ガザのハマース報道官は、誘拐を賞賛したが、実行には関係していないと述べた。パレスチナ自治政府のアッバース大統領は、14日にPA治安組織に3少年の搜索を命令したほか、16日には、アッバース大統領からネタニヤフ首相に電話をして行方不明の少年らについて協議をした。報道では、ネタニヤフ首相は、PAに捜査への協力を要請した。同日、アッバース大統領事務所は、3少年誘拐とイスラエル軍の捜査のやり方を非難する声明を出している。17日、ガザで、10武装組織が共同記者会見を行い、イスラエル軍の西岸での乱暴な捜査を非難するとともに、誘拐には関与していないと主張した。(同会見にイスラーム聖戦機構は欠席している。)

米国のケリー国務長官は、15日に3人の誘拐を非難し、即時解放を要請した。同長官は、多くの兆候がハマースの関与を指し示しているが詳細は調査中だと述べるにとどめ、イスラエルとパレスチナの治安機関に協力するよう求めた。EUのアシュトン外交・安全保障担当上級代表は、17日に犯行を非難する声明を出したが、イスラエル側は、その反応の遅さに強い不満を表明している。またイスラエル政府は、国際社会に、3少年拉致に関与したハマースとの関係を絶つようアッバース大統領に圧力をかけることを求めている。

評価

入植地に住む少年3人が行方不明になった事件であるが、これが誘拐事件かどうかはまだ確かではない。イスラエル側は、ハマースによる誘拐事件と断定し、西岸のハマース関係者及び組織に対するかなり強引な捜査を実施している。イスラエル側には、2006年6月にガザとイスラエルの境界地帯で拉致され、5年間の人質生活の末にパレスチナ人囚人と交換解放された

イスラエル軍兵士ギラード・シャリート事件の記憶があるだろう。シャリートは、2011年10月に、パレスチナ人囚人1027人との交換で解放された。

シャリートの拉致事件はガザ・イスラエル境界地帯で発生し、同人はガザ内で長期拘留された。2005年にガザから一方的に撤退したイスラエル軍にとって、2006年時点のガザはイスラエル領域外の地域とみなされていた。他方、今回の事件はイスラエル軍の中部方面軍が管轄する西岸地区で発生した。西岸にはパレスチナ自治地域があるが、今でも中部方面軍司令官による軍政下にある。イスラエル軍の軍政下で起きた誘拐事件を解決できないことは、占領統治者としてのイスラエル軍の権威にも影響する。

イスラエル政府は、3少年の誘拐事件に対する国際社会の反応の鈍さに不満を表明している。欧米諸国は、3少年の誘拐を非難しているが、同時に3人は占領地に不法に建設された入植地に住む入植者だと認識している。他方、イスラエル側は、イスラエル国内に住む一般のイスラエル人の少年らの誘拐と同じであると見ている。行方不明の少年3人に対するこの認識の差は、事件に対するイスラエルと欧米諸国との対応の違いとなり、今後、イスラエルと欧米諸国との間に新たな軋轢を生むかもしれない。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799